



引き続き感染症対策を習慣づけましょう!

冬は感染症の季節

市民のみなさまの感染症対策のご協力の陰で、新型コロナウイルス感染症は、夏に比べ、落ち着いてきました。しかし、冬は乾燥し、さまざまな感染症が流行しやすい季節です。これから年末年始にかけて、クリスマスやお正月と行事が多い時期に差し掛かりますが、新型コロナウイルスは一旦減少しても感染対策を怠ると、簡単に再拡大します。

「会食は4人以下、3密を避け、2時間以内、1次会で帰ろう」

特に大勢でのホームパーティーには気を付けましょう。少しでも体調が良くない場合には、外出は控え、かかりつけ医へ受診しましょう。

市民健康課では、お電話での相談も受け付けています。引き続き、感染対策を習慣化しましょう。

感染症対策のポイント

●手洗い

「帰宅したら」、「食事の前に」、「人や物に触れたら」、「石けんと流水でこまめに手洗いをしましょう。」

●マスク着用

人込みや屋内にいる時、会話する時は、マスクを着用しましょう。

●換気

空調を入れている時も、30分に1回数分間は窓を開けて、新鮮な空気に入れ替えましょう。

●身体的距離の確保

3つの密(密集場所・密接場面・密閉空間)を避けましょう。

●健康管理

毎朝起床時に体温測定記録をしましょう。

●市民健康課(内線 2241)

くがにんちゅ 今月の黄金人



かつ た すみ こ
勝田 澄子さん

今月は長年PTA役員や社協会員として地域の子どもの成長を見守り、定年後もスクールボランティアとして活躍中の勝田澄子さんをご紹介します。

小学校の特別支援学級では勉強を、放課後学童クラブでは切絵や人形などの小物づくりを教えています。地域の方から頂く牛乳パックや古着など、どんな物でも素敵な作品に生まれ変わらせていきます。昨年の「つながろうプロジェクト」では中部農林高校生の育てた花の苗に、手作りブローチを添えて地域の高齢者に贈り、大変喜ばれました。

30年前に家族で沖縄に移住。いつしか「勝田さんにアイデア教えたら何でもやってくれる」と皆から親しまれるように。月2回は図書館へ通い作品のヒントを探したり、高校生のお孫さんに学習法を教わったりするなどの努力を惜しまない一面も持っています。

元気の秘訣は続けること。「毎日でも学校に行きたい」とパワフルで楽しそう!「みんなから支えられて私は幸せ!差し上げてもお礼は頂きたい」という心の在り方にボランティアを続けていく秘訣もありそうです。

もっと子どもを見てくれる人が増えてほしいと語る勝田さん。あなたもスクールボランティアをしてみませんか?

●介護保険課 地域支援担当 TEL939-1212 (内線3142)



こちら沖縄市立郷土博物館

(文:学芸員 川副)



寒く感じる日が増えてきましたね。そこで今回は、新収蔵品展で展示中の心の温まる資料をご紹介しますね。

この資料の持ち主は与那国島生まれの方です。与那国島では、毎年お祭りには新しい着物を着て参加する習慣があり、彼も毎年お母さんに着物を作ってもらったそうです。おしゃれなチェックの柄は、八重山地方の伝統的な着物の文様です。

この方が大学進学で東京に行く時、お母さんは彼の着物を洋服に仕立て直して送り出してくれました。見えない部分、強度が必要な部分はミシンを使い頑丈に、表側は手縫いで縫い目が目立たないように工夫されています。

この服はおよそ50年前に仕立て直したのですが、傷みはほとんど見られません。持ち主がこの服をどれほど大事にしていたかを想像すると、胸が熱くなります。

この親子の愛情を感じる服は、持ち主のご厚意で博物館に寄贈されました。12月26日まで展示していますので、お気軽にご来館ください。博物館がいただいたモノには物語があります。私たちはモノだけではなく、その物語も次の世代に引き継いでいけるよう、毎日調査をしています。